

## 別記様式（第5条関係）

## 会議録

会議の名称	令和6年度 第2回福津市観光産業活性化協議会			
開催日時	令和6年12月20日(金) 午前10時00分～午前11時30分			
開催場所	福津市役所 別館大ホールCDE			
委員名	(1) 出席委員 永松毅文 増田美佐子 浄見譲 森田誠 塩川浩一 小役丸秀一 藤田裕美子 山口尚志 (2) 欠席委員 佐藤聰 黒田伸太郎			
所管課職員職氏名	経済産業部長 宮原栄介 観光振興課長 波多野哲平 商工振興課長 梶原龍生 観光振興係長 清水翔平 観光振興係 花田智美			
会議題 (内容)	1. 開会 2. 会議録の作成方針の決定 3. 議事 (1) 令和6年度福津市観光入込客数調査結果 (2) 福津観光の「核」について (3) その他 4. 閉会			
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開			
非公開の理由				
傍聴者の数	2名			
資料の名称	資料1 福津市観光産業活性化協議会委員名簿 資料2 令和6年度福津市観光入込客数調査結果 資料3 福津観光の「核」について 資料4 旧福津市福祉社会館「潮湯の里 夕陽館」に係る進捗状況報告について			
会議録の作成方針	<input type="checkbox"/> 録音テープを使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音テープを使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録			
記録内容の確認方法	会長が指名する委員による確認			
その他の必要事項	オブザーバーとして参加1名 • (一社) ひかりのみちDMO福津 中村留美			

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）	
1. 開会	
2. 会議録の作成方針の決定	
事務局	：福津市附属機関の会議の公開に関する要綱、福津市会議録作成要綱について説明。
決定事項	：会議の公開。事務局により会議録案を作成し、委員による確認の上で会議録の完成とする。
永松会長	：出席委員のうち、塩川委員及び山口委員に会議録の確認依頼をすることの提案。
決定事項	：会議録の確認は、塩川委員及び山口委員とする。
3. 議事	
(1) 令和6年度福津市観光入込客数調査結果	
(事務局)	「資料2 令和6年度福津市観光入込客数調査結果」に基づき説明。
(永松会長)	事務局からの報告について、質問などありますか。
(山口委員)	あんずの里市とあんずの里運動公園は同じところにありますが、重複していないのですか。
(事務局)	あんずの里市は産直施設、あんずの里運動公園は公園として利用されており、重複しないものと考えます。
(山口委員)	ほたるの里が集計に上がっていませんが、観光施設ではないですか。
(事務局)	この表は、年間1万人以上の来訪者がある施設のみ抜粋して掲載しています。掲載していない場所は、その他に含まれます。
(増田委員)	新原・奴山古墳群の展望所は、土日を中心に開設し、多くの来訪がありますが、どのくらいの人が来訪していますか。
(事務局)	昨年の来訪者が年間6,944人であり、1万人に達していないため、表に掲載していません。約1万人だった前年から減少していますが、これは古墳まつりの会場が変更になったことや古墳まつり時の天候が悪かったことが理由だと考えられます。
(増田委員)	菜の花の時期などに多くの来訪者がいるため、実際にはもっと多くの人が来訪していると思います。今後は、そのような人も計測できるように検討してほしいです。
(事務局)	展望所の近くでは、センサーで来訪者を計測していることを補足してお知らせします。
(増田委員)	30号墳付近で計測することも検討してほしいです。
(淨見委員)	1人の人が複数箇所を来訪した場合、重複して数えられているのではないか。そのため、正確な数値ではないように思いますですが、大体何割減した数値が実数と考えられますか。
(事務局)	福岡県が行っていた際の集計方法を継続して採用しており、実数を出すための計算式等はないのが現状です。
(永松会長)	他自治体でも同様に入込客数が集計されていますが、同じ人が何箇所に行っているかは分からないのが現状です。
(山口委員)	1万人以上という結果は、何に使うために出しているのですか。1万人未満の場所にも光を当てたいと考えていますか。

(事務局)	観光基本計画などに関し、福津の魅力や理想の観光の状態を図るための基礎データや検討材料として考えています。来訪者の少ない場所を切り捨てるということではなく、表の見やすさを重視して作成しています。
(永松会長)	施設名を出さず、合計のみの数値を出している自治体が多い中で、福津市は内訳まで出しているのは珍しいです。トータルで数値を伸ばしていくようにできたらと思います。
<b>(2) 福津観光の「核」について</b>	
(事務局)	「資料3 福津観光の「核」について」に基づき説明。
(永松会長)	前回の協議会の中で「海」というキーワードが出てきたことを参考に、事務局から案が提示されました。委員の皆様から意見などはありますか。
(増田委員)	「海」をキーワードにした「海から生まれたまち福津」という具体案はとてもいいと思います。古墳群を観光資源と考えた際、古墳群を訪れた人への記念品などのプレゼントがあればいいなと思います。そのため、古墳に来た人がしっかりと古墳を味わえるように自動販売機などの仕組みがあればいいなと思います。
(淨見委員)	約500万人が宮地嶽神社に来ていますが、観光入込客数の結果を見ると他の場所の数値がとても少ないと感じます。せめて半分くらいの人が回遊してくれたらいいなと思います。できるかできないかは別として、例えば、韓国のプサンに行くと、海岸線にスロープカーが走っています。スロープカーを福間海岸から津屋崎海岸や東郷公園まで走らせる、樽前船を借りて津屋崎漁港から京泊まで人を乗せて走らせるなど、人が集まってくれるところを演出していかなければ、この数値は伸びないと思います。来た人にいかに地元に入つてもらうかが課題です。現状では、宮地嶽神社が一人勝ちとなっていますが、その人たちが回遊するように、地元として何かやっていかなければならないと思います。地元に対するブランディング化や、年に1回地元を上げた大きなお祭りをすることが必要だと思います。宮地嶽神社やDMO、筑前七浦の会などの組織が力を合わせ、海岸線に人を呼ぶことを念頭に考えていくべきだと思います。ブランディング化するために、会議だけではなく、何か実施してほしいです。私も協力していきたいと思います。その点では、予算の都合としても福岡空港での広報がなくなったことは、逆の方向だと思います。イメージをつくる、ブランディングを行うことが大事だと思います。
(永松会長)	核やキャッチフレーズを決めた時に、それをどのように回遊につなげていくかというプロモーションに関しての意見だったと思います。核やキャッチフレーズについてはどうですか。
(淨見委員)	東京から飛行機で帰ってくる際、福津の海岸線が見えます。「海」がコンセプトであれば、海岸線も夕陽も関連するので「海」や「海のまち」は大事なコンセプトだと思います。
(塩川委員)	コンセプトとしてはいいと思いますが、どこがどうやってアピールしていくのか分かりません。

(小役丸委員) 「海から生まれたまち福津」は分かりやすく、イメージもいいと思います。福岡県全体で考えると、福岡市内には非常に多くの人が来ていますが、他の場所になかなか行っていない現状があり、それは観光地としてあまり認知されていないことが原因としてあると思います。そのため、筑前七浦の会という福津市、岡垣町、宗像市を中心に活動する会について、福津市が窓口となり、県が力を入れているよかバスという事業を利用していくのもいいと思います。また、宮地嶽神社に約500万人が来ている中で、他を訪れていない人が多いことについて、福津市で商売をする者として努力不足の面もあったと思うため、勉強会を開いてどうするか話し、変えていくことが大事だと思います。例えば、淡路島はパソナの本社が移転したのに合わせて観光に力を入れたことで脚光を浴び、見直されています。やっていることは自分たちと変わらないと思いますが、海岸線にパラソルの道や小さな屋台の集合体を作るなど、うまくやっていると思います。イメージはとても大事であるため、お金のかからない方法で行政が民間も取り入れながら何かできれば、地域のイメージは変わるとと思います。

(藤田委員) 「海から生まれたまち福津」というキャッチコピーはすごくいいと思います。それに基づき、今後の観光の進め方を考えていけたらいいと思いますが、宮地嶽神社とそれ以外の場所が来訪者数の差が大きく、もっと頑張らないといけないなと思います。光の道やかがみの海をPRしていますが、そこを訪れている観光客が一体どこに位置づけられているのか疑問です。集計表の「その他」にどんな場所が含まれているのか、記載があれば分かりやすいと思います。また、福間駅の来進「福津めん鯛丼」がJR九州のご当地丼総選挙で優勝したことは、「海から生まれたまち福津」にも通じるものがあるため、宣伝してもっと盛り上げてもいいと思います。先ほどのスロープカーについての発言についても、設置場所の問題はあると思いますが、できれば魅力満載のまちになると思います。

(山口委員) キャッチフレーズはこれでいいと思います。福岡市は脚光を帶びていて集客力があると思いますが、それに続く場所として西の糸島、東の福津があると思います。糸島市は海や農産物をPRしており、ライバルとして意識すべきだと思います。また、福津市内には乗馬ができる施設が複数あり、乗馬は外国人にも人気だと思います。福津市のオリジナル性を出すために、これまでと違った観点で、糸島市を意識して「海から生まれたまち福津」を考えていくといいと思います。

(森田委員) キャッチフレーズについて、いいと思います。観光入込客数の調査対象に、地元の人が多く使用していて観光地ではないではと思える施設が含まれています。観光客を呼び込もうとするためのものであれば、他の施設を調べた方がいいと思います。また、宮地嶽神社以外にも訪れる場所はあるため、どうすれば回遊してくれるのかを議論したほうがいいと思います。

(小役丸委員) 以前よりベンチマークとして考えていることですが、バリ島のジンバランの海岸は、福津の海岸と似ていると思います。ジン

	バランを参考に取り組むことができれば、宮地嶽神社の後に海岸線を訪ねるという大きなルートができると思うため、ジンバルを参考にするといいと思います。
(永松会長)	皆様の意見をまとめると、「海から生まれたまち福津」というキャッチフレーズについては、いいという意見が多くでました。今後は、海を起点にして、いかに地元にお金を落としてももらえるようにしていくのか、回遊につなげていくのかについて、議論を進めていく必要があると思います。第3回の協議会では、小役丸委員からの情報提供など参考になる事例を事務局で調べた結果も参考にし、それらについて議論を進めたいと思います。なお、「海から生まれたまち福津」というキャッチフレーズは、現在DMOで先行使用しホームページにも掲載されているため、これから投影しイメージについて共有できればと思います。
(事務局)	福津ウェーブ内「海から生まれたまち福津」ページをスクリーンに投影して紹介。
(永松会長)	福津観光の核やキャッチフレーズについて、「海」を前面に出して「海から生まれたまち福津」をキャッチフレーズに進めていくことを、本協議会での考え方として良いですか。
(各委員)	(意義なし)
(永松会長)	これから大事なことは、市内の観光客の6分の5が宮地嶽神社に行ってますが、そこからの波及効果や回遊性を伸ばしていくことだと思います。次回は、それらについて意見を聞かせてほしいので、皆様の協力をお願いします。
(山口委員)	次回のため、観光入込客数について県内、県外、インバウンドなどの内訳や割合が分かれば、分析に役立つと思いますがどうですか。
(事務局)	特に数値は把握していません。割合などは、令和4年度に実施した中間見直しの報告書が参考になると思います。
(淨見委員)	宮地嶽神社に関しては、旧玄海ロイヤルホテル（現在：メルキュール福岡宗像リゾート&スパ）に宿泊した30～40人の韓国人が毎朝バスで来ています。そのため、年間約5万人のインバウンド客があり、その他は約7割が県外、約3割が地元からだと思います。
(永松会長)	福津観光の核やキャッチフレーズについて、認識の統一はできたと思いますが、良いですか。
(各委員)	(異議なし)
(3) その他	
(事務局)	「資料4 旧福津市福祉会館「潮湯の里 夕陽館」に係る進捗状況報告について」に基づき説明。
(山口委員)	利用料はいくらと考えていますか。
(事務局)	今後の工事等により変わるため、現時点では回答できません。
(淨見委員)	今後の観光行政についての予算増を検討してほしいです。
	以上。
4. 閉会	